

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

<p>解答形式                  論述 (1行30字 2行×3、3行×1、4行×2、5行×1 計22行)                  分量・難易 (前年比較) 分量 <b>減少</b>・変化なし・増加 難易 (易化・<b>変化なし</b>・難化)                  分量は1行減少したが、枝問なしの5行の問題が現れた。難易度に変化はない。                  出題の特徴                  大きな変化はない。ただし、戦後の高度経済成長期までが対象となっているので、戦後史をしっかりと学習していなければならない。                  その他トピックス                  第1問は夏期講習・冬期講習で国司・郡司に関する予想問題を扱った。</p>
---

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 A 2行 B 4行	郡司制度の変容	A 郡司の特異な性格を前提に、その「歴史的背景」について説明しなければならない。 B 条件文(1)と(5)から大筋はつかめるが、(2)(3)(4)から国司・郡司関係の変化として指摘するかがむづかしい。	やや難
第2問	論述 5行	惣村の機能	惣の基本的な性格は理解しているであろうが、具体的な「行動」を条件文から読み取らねばならない。 惣の支配者レベルである、武装した地侍(「侍衆」)の存在などを過去問で学習していなければならない。	標準
第3問	論述 A 2行 B 3行	大船禁止令	A 素直に学習したとおりに答えておけばよい。 B 「理解のしかた」を比較しなければならない。大筋は簡単につかめるだろうが、設問の指示に従った答案を目指すことが必要。	標準
第4問	論述 A 2行 B 4行	工業労働者の賃金	A 関連する過去問も多く、行数も少ないので、簡潔にまとめることに留意すればよい。 B 戦後史、具体的には高度経済成長期までしっかりと学習していないと1960年代の説明は不可能。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>代表的な過去問に目を通し、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、夏期講習段階で予想問題にチャレンジすること。                  また、文化史を不得意分野にしないこと。作品暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、政治・外交・経済との関わりに十分注意すること。</p>
--